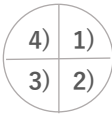


9/17（木）自工会会見 本日のスケジュール

時間	内容	出席者
11:45-12:05	1. 趣旨説明(2 分)	総合政策委員長 松山 洋司
	新 7 つの課題⑤ 「自動運転を前提とした交通システム確立」 事故死ゼロ・移動の自由の実現に向けた取組み (20 分)	安全技術・政策委員会 委員長 赤石 永一（日産） 次世代モビリティ委員会 委員長 山本 圭司（トヨタ） 安全技術・政策委員会 副委員長 皿田 明弘（トヨタ）
12:05-12:50	2. 説明、質疑応答(45 分)	
	冒頭発言	会長 佐藤 恒治
	質疑応答	会長 佐藤 恒治 副会長 山口 真宏 鈴木 俊宏 イヴァン エスピノーサ 三部 敏宏 設楽 元文 松永 明

以 上

新7つの課題の取り組みテーマ
(2026.9.17時点)



- 1)検討開始
- 2)内容合意
- 3)活動開始
- 4)推進中

新7つの課題	取り組みテーマ案（■新規大玉PJT／●継続取り組み）	進捗
①重要資源・部品の安全保障 …資源・部品不足による 「作れない」をなくす	●リスク低減と「後戻りしない仕組みづくり」 ・業界としての、足下の資源調達への対応力強化 ・競争・協調の明確化と、業界としてのコミット具体化	
②マルチパスウェイの 社会実装 …50年CNに向け、マルチパス それぞれで脱炭素商品の普及を 目処付け	■水素：幹線輸送での水素トラック普及 ・商用車を起点に水素需給を創出 ・幹線輸送での普及ロードマップの具体化を推進	★
	■電気：走行中無線給電の社会実装 ・高速道路電化計画具体化により、社会実装を加速	
	●CN燃料：CN燃料の早期普及 ・E20の早期実装に向け、E10対応を推進	
③CEの仕組みづくり …経済安全保障・環境対応に向け 部品・資源循環の仕組みを構築	●電池：静脈産業の事業化 ・国内リサイクル・海外セカンドループ・中古電池の 価値見える化の仕組み実装	
④人材基盤の強化 …安定した開発・生産・販売・サービス に向けて、継続的に人材が 確保・育成される仕組みを構築	★ ■整備士不足への対応 ・アフターサービスの品質向上のため、国や自販連とも協力し、 整備人材の確保、生産性の向上に向けた打ち手を明確化 ※今後のAI・ロボティクスの進化に応じて強化すべき領域が変わって いくため、産業への影響を踏まえ、他領域についても継続検討中	
⑤自動運転を前提とした 交通システム確立 …安全・安心な交通社会に向けて 車・人・インフラ三位一体で仕組み構築	★ ■事故死ゼロ・移動の自由実現に向けた取り組み	
⑥自動車関連税制抜本改革 …簡素化・負担軽減で ユーザーに納得感のある税体系へ	★ ●車体課税の簡素化・負担軽減 ・9月理事会（本日）で税制要望書を決議	
⑦サプライチェーン全体での 競争力向上 …電動化・知能化や労働力不足に 対応し、競争力を高めるべく SCを再構築し、現場の余力を拡大	■共同物流実装に向けた標準PF構築 ・積み荷・輸送情報を共通のデータPFに蓄積、共同物流を拡大	★
	■部品・素材共通化によるSC強靱化 ・JAMA規格策定で、コスト・工数・リードタイムを削減	

課題⑤ 自動運転を前提とした交通システム確立

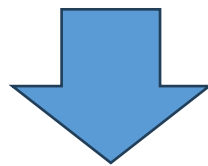
事故死ゼロ・移動の自由の実現に向けた取組み

日本自動車工業会

自動運転プロジェクトチーム

自工会の目指す姿

全ての人・物が安全・安心に自由に移動できる自動運転社会の実現



事故死ゼロ

究極の目標：事故ゼロの実現

×



移動の自由

事故死ゼロ・移動の自由の実現に向けた共通課題

事故死ゼロ

- ・ADAS/ADS技術普及
- ・交通弱者の保護
- ・人的ミスの削減

移動の自由

- ・高齢者の移動確保
- ・地方交通の維持
- ・物流・人流の維持

実現に向けた
共通課題

共通課題①

インフラ技術の進化

共通課題②

社会基盤整備

共通課題③

市場浸透施策

3つの共通課題を推進し、日本型の自動運転社会を実現

⇒ 日本で確立した仕組みを国際標準化議論につなげ、日本の競争力確保を目指す

事故死ゼロ・移動の自由の実現に必要な取り組み

競争領域

■ AIを活用した車両の自律性能向上

⇒ 各社で、早期の市場投入に向け、E2E開発を精力的に推進中

協調領域

(1) インフラ協調による安全性向上・交通流円滑化

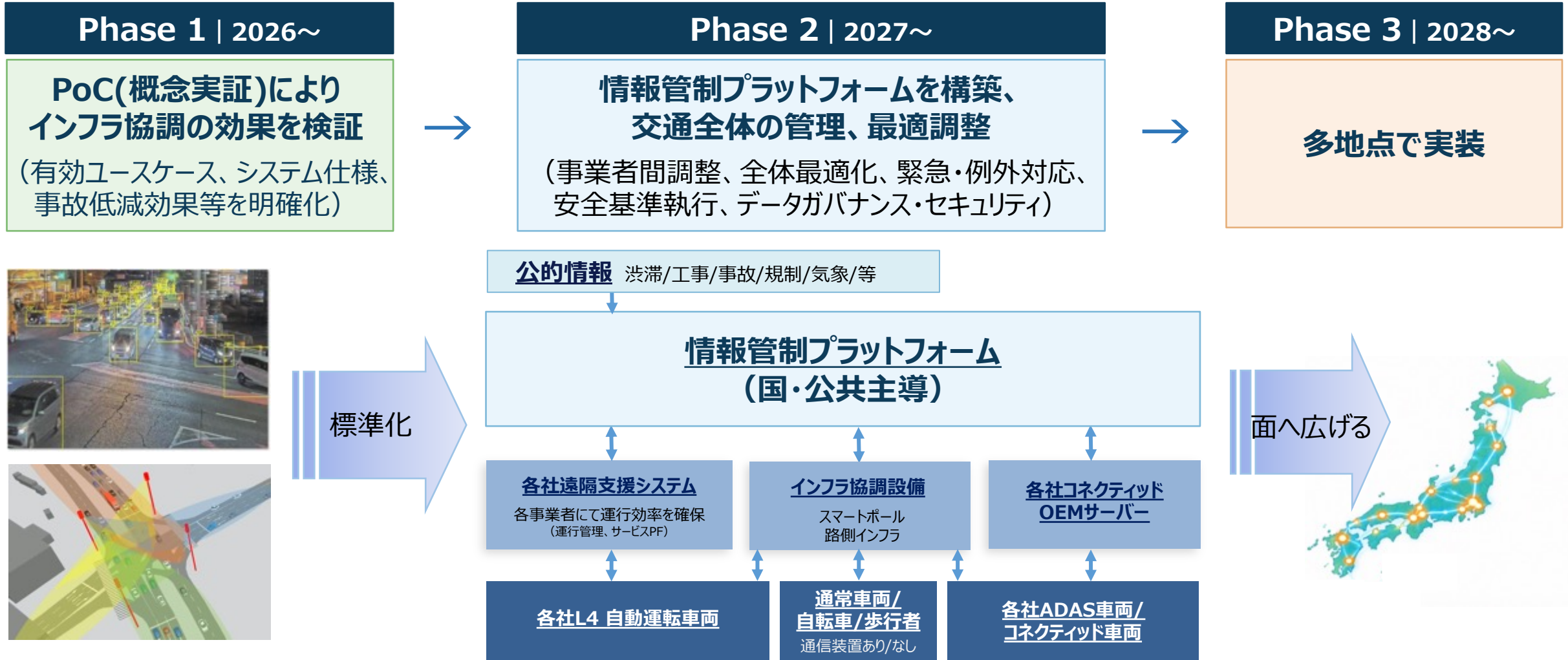
(2) 社会基盤の整備

(3) 技術の市場浸透

⇒ 社会実装力の向上

(1) インフラ協調による安全性向上・交通流円滑化

車両単独では“見えない・間に合わない”リスクを補う共通基盤＝情報管制PFを構築



(2) 社会信頼基盤の確立と実効化

法令適合・正常作動を前提としても残るリスクに対し、
事故後の検証・救済・改善を止めない仕組み

なぜ必要か

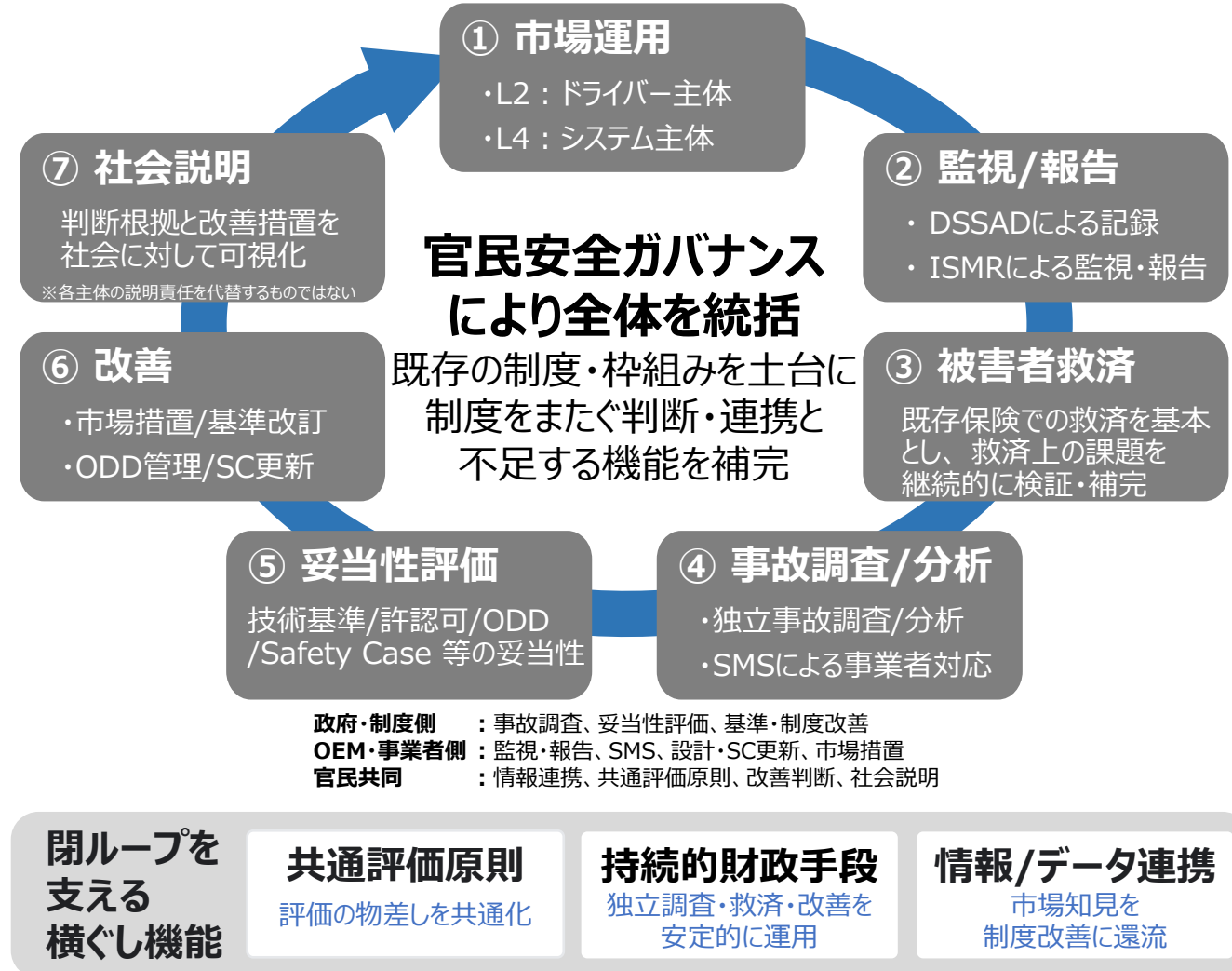
想定シナリオ

- 1 重大事故・インシデントが発生**
法令適合、正常作動、安全管理に瑕疵がなくても、
残余リスクによる被害は起こり得る
- 2 責任・判断だけでは完結しない課題**
事故の責任がどこにあるかは別に、
迅速な被害者救済と独立した原因究明が必要
- 3 制度をまたぐ対応が必要**
個社・単独制度を超え、事故調査、救済、安全改善、
社会説明を接続することで経験を還流させる

自工会のアクション

制度・主体をまたぐ情報連携、共通評価、
持続的運用の具体化を官民で推進する

【社会信頼を支える継続改善サイクル(閉ループ)】



～2028：データ連携・事故調査の制度設計 ～2029：評価・改善・社会説明の運用設計 ～2030：救済・財政基盤を含む全体運用

(3) 技術の市場浸透

安全に運転を続けられる社会から、運転をやめても移動が続けられる社会まで、切れ目なく支える

安全な運転を実現する



安全車の共通認定

安心して選べる車両性能を定義

- サポカー
- L2++優良認定制度



安全利用サポート

保有期間を通じて正しく安全に利用

- 購入前の機能体験
- 納車時の個別設定
- 点検・再教育



効果検証と改善

事故削減効果を検証し継続改善

- 作動率・解除率
- 事故・重傷事故削減
- 第三者評価と公表

安全な選択・普及を社会で支える



経済障壁の低減

安全な車・サービスを選びやすく

- 購入・リース支援
- 保有コスト軽減策
- 認定中古車の活用



省庁横断の官民会議

車両・免許・医療・保険・税制・
地域交通の一体化とインフラ整備

- 普及支援制度/ 免許制度整備
- 交通ルールのデジタルインフラ拡充
- 交通インフラ（信号機、道路標識）標準化



医療・地域連携

本人に適した運転継続を支援

- 能力と機能の適合支援
- 自治体窓口との接続

運転をやめても移動を守る



移動サービスへの展開

相談・体験・登録を通じて
サービスへ接続

- 啓発（体験・相談・利用登録）
- 利用支援と運行地域拡大

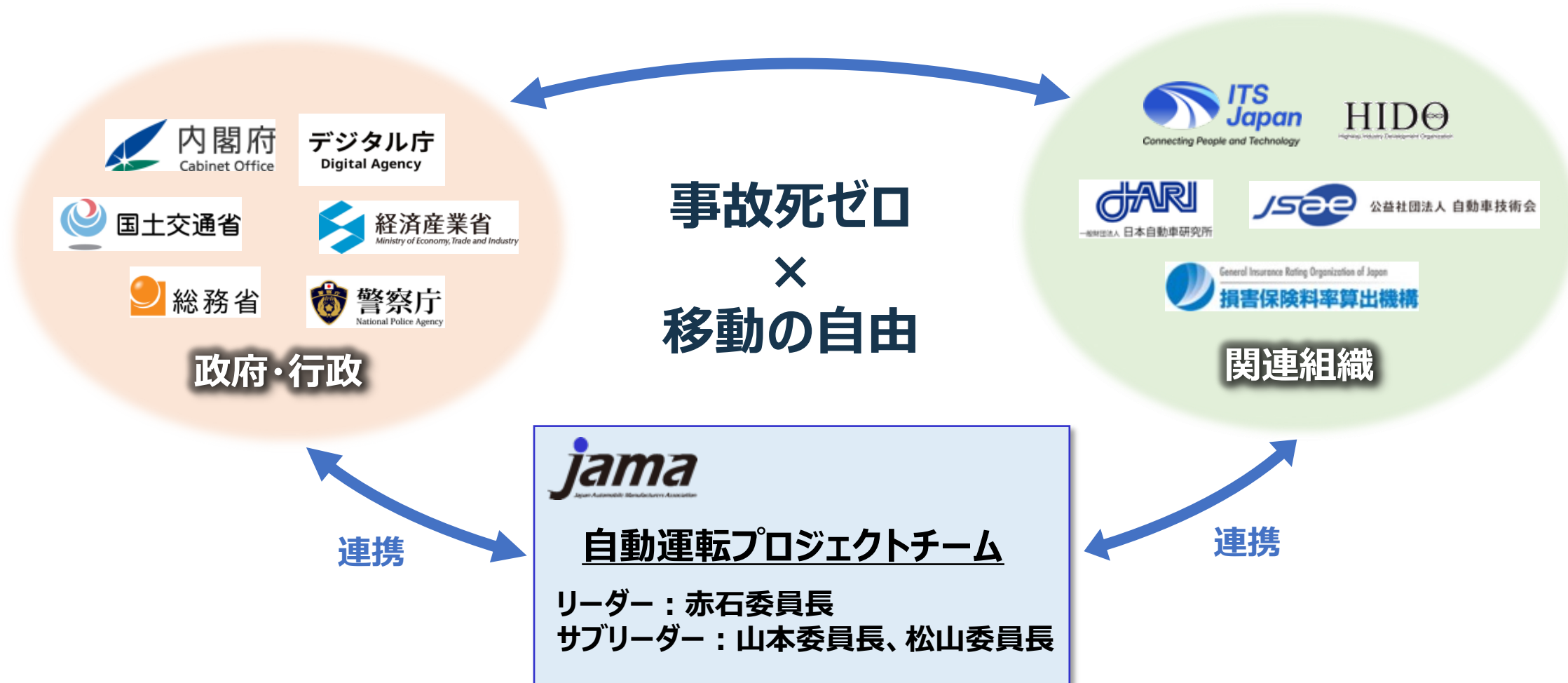


持続可能な運営基盤

財源・費用分担・共同基盤により
地域サービスを維持

- L4事業を支えるインフラを実装・保守するための制度整備（複合財源の活用、受益主体の費用分担）
- 運営合理化（共同調達・基盤共用）

推進体制



理事会直下に自動運転プロジェクトチームを設置、
関係省庁/組織と連携し、事故死ゼロ・移動の自由の実現を目指す

ご参考：事故死ゼロ・移動の自由の実現に向けた取り組み

		2026	2030	2035
政府目標		AD車 1万台		AD車世界シェア25%
技術進化	クルマ：ADAS/ADS	AEBS・先読み支援拡大 → L2++とL4の活用		
	インフラ協調：V2N・V2X	インフラ協調PoC → 対車両・交通弱者 安全確保		事故死ゼロ・ 移動の自由の拡大
		情報管制PF構築 → 多地点実装		
	ヒト：人的エラー対応	ドライバ状態適応支援		
社会信頼基盤整備		社会信頼基盤確立 → 運用と改善		
技術の市場浸透		サポカー1.0 & 2.0	サポカーの進化 (L2++, V2X)	L4への拡張
		L4事業を支えるインフラ制度整備		
		普及・免許制度		

1. 沿革 1994年 道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会として設立。
2001年 ITS Japanと名称変更。2005年 NPO法人化。

2. 目的 ITSの発展・普及・実用化の促進と国際交流に関する事業を通して、
豊かなモビリティ社会(事故ゼロ、CN、移動の自由)の実現を目指す。



-設立趣旨-

広く一般市民を対象に我が国の移動・交通分野の幅広い関係機関などと連携し、ITSの発展・普及・実用化の促進と国際交流に関する事業を行い、産業の発展を通じて、一般市民が住みやすく生き生きとした社会の実現を目指す

3. 事業と位置付け

事業 : ① 政策提言 ② 研究/インキュベーション促進 ③ ITS世界会議開催

位置付け: ① ITS推進における民間の代表的な立場
② 関係府省庁に対して中立

4. 組織 会員数 : 241 (OEM、サプライヤ、電機、通信、
道路インフラ、団体、大学、自治体等)

会長 : 山本 圭司
トヨタ自動車 デジタル情報通信本部 本部長
(自工会 次世代モビリティ委員会 委員長)

理事企業・団体



総務省 総合通信基盤局

『自動運転時代の“次世代のITS通信”』
(2026年6月23日 発行)

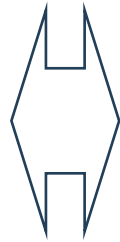
国土交通省 道路局

『自動運転時代を見据えた
次世代のITSの推進』
(2026年7月6日 発行)

デジタル庁

『モビリティ・ロードマップ』 (2026年7月21日 発行)

『自動運転社会実装
先行的事業化地域事業』
(2026年3月6日 公表)



自工会

(自動運転プロジェクトチーム)

- ・インフラ協調による安全性向上・交通流円滑化
- ・社会信頼基盤の確立
- ・技術の市場浸透
- ・事故死ゼロ、移動の自由に向けた統合ロードマップの策定と発信



ITS Japan

(ITSインフラ整備普及WG)

- ・ITS施策に関する関連省庁への提言
- ・インフラメーカー、通信会社と連携した技術要件整理、標準化仕様策定
- ・アジア太平洋地域のリーダーとして国際連携を牽引



共有

海外通信標準化団体・業界コンソーシアム

3GPP、GSMAなどの通信標準化団体
各国ITS団体 (ITS America(米), ERTICO(欧) 等)

ITS Japan インフラロードマップ

社会実装

社会実装を担う各種業界団体

道路新産業開発機構
ITS情報通信システム推進会議
電波産業会、UTMS協会 など

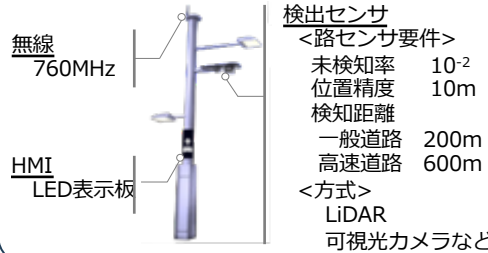
ITS Japan インフラロードマップ(案)

通信
インフラ

情報
処理
基盤

<交差点単位で安全サービス実現>

既存の無線通信/路センサ技術を活用



<車両制御/安全以外サービスに対応>

路センサ精度向上。多様な通信方式を追加



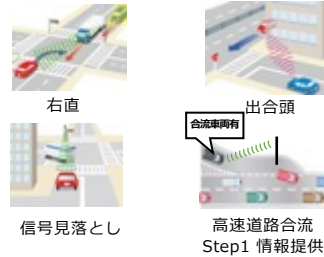
<街全体での情報管制や
高度なモビリティサービスに対応>
AI/情報処理基盤と連携した途切れない通信



目指す姿 (2028年)

Phase 1<事故低減>

事故多発交差点にITSインフラ設置が始まり、
主に車対車サービス(注意喚起)により
事故低減に寄与



出典: ITS Connect推進協議会ホームページ

目指す姿 (2030年)

Phase 2<自動運転の普及>

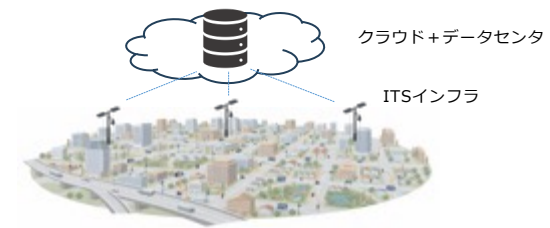
全国事故多発交差点にITSインフラを配備、
対交通弱者とADAS連携を強化、
自動運転L4に活用、安全以外サービスが多様化



目指す姿 (2035年~)

Phase 3<安全で自由に移動できる社会>

交差点DTが全国主要交差点に実装、様々な事故形態に対応
遠隔自動運転が実用化
安全・安心で誰でも自由に移動が可能な交通社会を実現



<エッジ分散>

交差点単位で、車両や歩行者の挙動を
認識・推定、リスクの通知



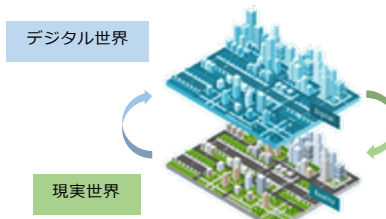
<情報管制>

地域/全国レベルで、各エッジからデータを集約、
交通流の判定、代替ルート通知、合流等走行支援



<デジタルツイン>

歩行者や車両も含め交通参加者を交差点~全国レベルで
把握、交通・防災・防犯に最適な挙動の推定と提案



用語	定義
E2E (End-to-End)	入力情報を途中で人為的に切り分けることなく最終出力まで伝え、その結果の良し悪しを入力までさかのぼって全体最適化できるアーキテクチャ構造
ADAS (Advanced Driver-Assistance System)	先進運転支援システム、衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱防止機能等の総称
ADS (Automated Driving System)	自動運転システム
L2	運転自動化レベル2、ドライバーの責任のもとで、アクセル・ブレーキ操作（前後）とハンドル操作（左右）の両方をシステムが同時にサポート
L2++	ドライバーの責任のもとで一般道（市街地）の右左折や信号認識までシステムがサポート（現時点では、明確な技術的定義は存在しない）
L4	運転自動化レベル4、特定の走行環境条件を満たす限定された領域において、自動運行装置が運転操作の全部を代替（ドライバーによる引継ぎを前提としない）
DSSAD (Data Storage System for Automated Driving)	自動運転データ記録装置、自動運転システムの作動状態を記録する装置
ISMR (In-Service Monitoring and Reporting)	市場稼働後の監視・報告
SMS (Safety Management System)	安全マネジメントシステム
ODD (Operational Design Domain)	運行設計領域
サポカー	安全運転サポート車（セーフティ・サポートカー）
V2N (Vehicle to Network)	車が携帯電話の基地局（モバイルネットワーク）を通じて、インターネットやクラウドと通信する仕組み
V2X (Vehicle to Everything)	車が、他の車（V2V）や歩行者（V2P）、道路インフラ（V2I）など『周囲のあらゆるもの』と無線でつながり、情報交換する技術の総称